

事務事業名	市有地・保留地購入資金預託事業				担当	建設部 区画整理課 管理係		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			電話番号	0285-83-8155		
施策名	7	良好な住まいの供給と促進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	真岡市土地区画整理事業保留地購入資金融資要綱					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成8年度～）		
予算科目	1.一般会計	8.土木費	4都市計画費	2土地区画整理費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	市有地（土地区画整理完了後の旧保留地）、保留地の販売促進のため、金融機関と契約し、保留地購入資金融資額の3分の1相当分を金融機関に預託し、借入金の利子の低減を図る。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 23年度実績 前年度(2月末) 借入実績を基に、年度当初に各金融機関に預託する。 24年度計画 前年度(2月末) 借入実績を基に、年度当初に各金融機関に預託する。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移								
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)		
ア 預託金額	千円	22580	22560	17080	14120	30000			
イ									
ウ									
エ									
オ									
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 保留地購入者に融資する市内金融機関	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移								
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)		
ア 保留地購入者数	人	50	46	54	49	54			
イ 預託金融機関数	箇所	7	7	7	7	7			
ウ									
エ									
オ									
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 保留地購入者の資金確保を支援する。低金利での融資実行を確保する。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移								
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)		
ア 単年度融資利用者数	人	3	2	2	0	10			
イ 単年度利用金融機関数	箇所	3	2	2	0	7			
ウ									
エ									
オ									
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 保留地処分。低金利での購入資金の確保	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移								
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)		
ア 保留地売却収入	千円	239005	74468	116768	128826	174000			
イ 金利	%	2.80	2.80	2.80	2.80	2.0			
ウ									
エ									
オ									
(2) 総事業費の推移									
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0
			その他	千円	22,580	22,560	17,080	14,120	0
			一般財源	千円	0	0	0	0	0
			事業費計(A)	千円	22,580	22,560	17,080	14,120	0
人件費	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	0	
		延べ業務時間	時間	4	4	4	4	0	
		人件費計(B)	千円	17	16	17	17	0	
トータルコスト(A)+(B)			千円	22,597	22,576	17,097	14,137	0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	市有地（土地区画整理完了後の旧保留地）、保留地の処分は、土地区画整理事業の財源確保の重要な課題であり、区画整理事業の円滑な進捗を図るため、保留地購入者に対し低金利での融資を確保することを目的として平成8年度より事業を開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	土地区画整理事業の進捗に伴い、保留地数が増減しておりそれに合わせて融資制度の利用者も変動している。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 保留地処分の促進
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 土地区画整理事業の推進と早期保留地処分による財源確保と安定化。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 区画整理地内の保留地購入者が対象である。 市内の金融機関が対象である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある この制度を利用する保留地購入者と融資を実行する金融機関の関係のみであるため向上余地なし。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 低金利の融資が確保できず購入者の資金調達に支障し、保留地の処分が滞る。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 預託金であり、削減の余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 預託・融資の事務量だけであり削減できない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 保留地の早期処分が目的であるため。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							